

シラバス

(授業計画書)

番号	科目	通学	通信
1	職務の理解 (6時間)	6	0
2	介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	1.5	7.5
3	介護の基本 (6時間)	3	3
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	1.5	7.5
5	介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	3	3
6	老化の理解 (6時間)	3	3
7	認知症の理解 (6時間)	3	3
8	障がいの理解 (3時間)	1.5	1.5
9	こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)	63	12
10	振り返り (4時間)	4	0
合計		89.5	40.5

慈光園 介護職員初任者研修

研修事業者名

社会福祉法人長井福社会

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）			
特	徴	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を学ぶ。			
目	標	・ 具体的な事例をとおして、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違いを理解する。			
		・ 具体的な事例をとおして、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアを理解する。			
		・ 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考え、理解する。			
		・ 虐待を受けている高齢者への対応方法を知り、高齢者虐待について理解する。			
項	目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
				講 義	演 習
(1) 人権と尊厳を支える介護	志盛幸喜		7.5	・ 人間の尊厳の保持 ・ 人権擁護の基本	
(2) 自立に向けた介護	孫田奈苗	1.5		・ 介護の基本視点 ・ 介護予防	
合	計	1.5	7.5		

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		3 介護の基本（6時間）		
特 徴		・ 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを学ぶ。 ・ 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点からの支援方法を学ぶ。		
		・ 介護職に求められる専門性を理解する。 ・ 介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに1人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することの重要性を理解する。		
目 標		内 容		
		講 義	演 習	実 習
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	・ 介護環境の特徴の理解 ・ 介護の専門性 ・ 介護にかかわる職種		
須貝崇志				
(2) 介護職の職業倫理	1.5	・ 介護サービスの公共性と職業倫理 ・ 利用者・家族に対する責任 ・ 社会に対する責任		
須貝崇志				
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	・ 介護における安全の確保 ・ 事故予防安全対策 ・ 感染対策のための基本的知識		
鈴木正子				
(4) 介護職の安全	1.5	・ 健康管理とストレスマネジメント ・ 介護職員の労働の権利と労働法		
鈴木正子				
合計	3	3		

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
特	徴	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について学ぶ。		
目	標	・ 介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念を理解する。		
		・ 「利用者の生活を中心に考える」という視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスを理解する。		
項	目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容
				講 義 演 習 実 習
(1) 介護保険制度	志登幸喜		4	・ 介護保険制度創設の背景、目的および動向 ・ 介護保険制度の仕組みの基本的理解 ・ 制度を支える組織・団体の機能と役割、財源
(2) 医療との連携とリハビリテーション	土屋亜沙美	1.5		・ 医行為と非医行為 ・ 医療・看護職とのチームケア ・ リハビリテーション職種との連携
(3) 障害福祉制度およびその他制度	土屋洋章		3.5	・ 障害者福祉制度の理念 ・ 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・ 個人の権利を守る制度の概要
合計		1.5	7.5	

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
特	徴	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限取るべき、あるいは取るべきではない行動例を学ぶ。		
目	標	・ 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考え、相手の心身機能に合わせた配慮ができるようになる。		
		・ チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性や重要性を理解する。		
項	目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容
				講 義 演 習 実 習
(1) 介護におけるコミュニケーション	志 業 幸 喜	3		・ 介護におけるコミュニケーションの技法 ・ 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	須 員 崇 志		3	・ チームアプローチ 多職種連携 ・ 観察、記録、情報伝達 ・ コミュニケーションをうながす環境
合	計	3	3	

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		6 老化の理解（6時間）			
特	徴	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
目	標	・ 高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について、その対応における留意点から、介護における生理的側面の知識を身につける。			
項	目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
				講 義	演 習
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	鈴木正子		3	・ 老年期の発達とところの変化 ・ 老化に伴うからだの変化	
(2) 高齢者と健康	豊野亮	3		・ 高齢者に多い病気の基礎知識 ・ 高齢者に多い病気とその日常生活の留意点	
合	計	3	3		

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		7 認知症の理解（6時間）			
特	徴	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則について学ぶ。			
目	標	・ 認知症の利用者の心理や実際の行動から、介護において認知症を理解することの必要性に気づく。			
		・ 具体的なケースをととして、認知症の利用者を介護するうえでの原則を理解する。			
項	目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
				講 義	演 習
(1) 認知症を取り巻く状況	志倉幸喜		1.5	・ 認知症ケアの理念	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	片倉里恵	1.5		・ 認知症の基礎知識 ・ 認知症の原因疾患 ・ 中核症状と行動・心理症状	
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	片倉里恵	1.5		・ 認知症に伴うこととからだの変化 ・ 認知症の人の対応	
(4) 家族への支援	孫田奈苗		1.5	・ 認知症家族介護者の現状の理解 ・ 認知症をもつ人の声、そして家族の声	
合	計	3	3		

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名

社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		8 障がいの理解（3時間）			
特	徴	障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方や介護における基本的な考え方について学ぶ。			
目	標	・ 介護において障がいの概念とICFを理解する。			
		・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点について理解する。			
項	目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容	
				講 義	演 習
(1) 障がいの基礎的理解	土屋洋章	0.5		・ 障害の概念とICF ・ 障害者福祉の基本理念	
(2) 障がいの医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	土屋洋章	1		・ 身体障害 ・ 知的障害 ・ 精神障害 ・ 言語・聴覚障害 ・ 視覚障害 ・ 発達障害 ・ 高次脳機能障害 ・ 内部障害 ・ 難病	
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	孫田奈苗		1.5	・ 家族への支援	
合	計	1.5	1.5		

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)			
特 徴	・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。				
	・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
目 標	・ 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるようになる。				
	・ 利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。				
	・ 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。				
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容		
			講 義	演 習	実 習
I 基本知識の学習(15時間)					
(1) 介護の基本的な考え方 船山元		6	・ 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 土屋洋章		6	・ 高齢者の心理 ・ 自己実現と生きがいづくり		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 土屋亜沙美	3		・ 人体の名称とはたらき ・ 運動動作に関する基礎知識 ・ 神経系に関するからだのしくみ ・ バイタルチェック		
小 計	3	12			

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)			
特 徴	・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。				
	・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
目 標	・ 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるようになる。				
	・ 利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。				
	・ 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。				
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容		
			講 義	演 習	実 習
II 生活支援技術の学習(50時間)					
(4) 生活と家事 					

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)			
特 徴		・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。			
		・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
目 標		・ 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるようになる。			
		・ 利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。			
		・ 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容		
			講 義	演 習	実 習
II 生活支援技術の学習					
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 長沼美希	7		・ 体位・姿勢の介護 ・ 外出の介護 ・ 衣類の着脱の介護 ・ 移乗の介護 ・ 車いすでの移動の介護 講義(3時間)	・ 体位・姿勢の介護 ・ 外出の介護 ・ 衣類の着脱の介護 ・ 移乗の介護 ・ 車いすでの移動の介護 演習(4時間)	
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 青木和志	7		・ 食事に関する基礎知識 講義(3時間)	・ 食事の介護 演習(4時間)	
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 船山元	7		・ 入浴・清潔保持に関する基礎知識 講義(3時間)	・ 入浴の介護 演習(4時間)	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)				
特 徴		・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。				
		・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
目 標		・ 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体の一部の名称や機能等が列挙できるようになる。				
		・ 利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。				
		・ 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。				
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容			
			講 義	演 習	実 習	
II 生活支援技術の学習						
(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 渡部綾香	7		・ 排泄に関する基礎知識 講義(3時間)	・ 排泄の介護 演習(4時間)		
(11) 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 遠藤美樹	7		・ 睡眠に関する基礎知識 講義(3時間)	・ 睡眠の介護 演習(4時間)		
(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 飯澤亮平	2		・ 終末期ケアに関する基礎知識 ・ 終末期ケア			
小 計	50	0				

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)			
特 徴	・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。				
	・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
目 標	・ 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるようになる。				
	・ 利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。				
	・ 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。				
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容		
			講 義	演 習	実 習
Ⅲ 生活支援技術の演習(10時間)					
(13) 介護過程の基礎的理解 長澤裕之 佐々木孝	4		・ 介護課程の基礎的理解 ・ 介護課程の展開 講義(4時間)		
(14) 総合生活支援技術演習 長澤裕之 佐々木孝	6			・ 要介護者・家族介護者への援助 ・ 要支援者への支援 演習(6時間)	
小 計	10	0			
合 計	63	12			

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	

介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名 社会福祉法人長井福祉会

科目及び研修時間数		10 振り返り（4時間）			
特 徴		研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認するとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成や学習課題の認識をはかる。			
目 標		- 在宅、施設のいずれの場合であっても、“利用者の生活の拠点に共に居る”という意識を持って、介護を行えるようになる。 - 利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認する。			
項 目	スクーリング 時間数	通 信 時間数	内 容		
			講 義	演 習	実 習
(1) 振り返り 土屋洋章	2		・ 学習到達度チェック 講義（2時間）		
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 飯澤亮平	2		・ 質の向上と人材育成 ・ キャリア段位制度と介護技術評価 ・ 事業所における事例に学ぶ 講義（2時間）		
合 計	4				

使 用 テ キ ス ト	一般財団法人長寿社会開発センター発行「介護職員初任者研修テキスト」
使用する機器・備品等	プロジェクター、DVDデッキ、ノートパソコン
備 考	